

草の根・人間の安全保障無償資金協力

「リロングウェ県リクニ・ミッション病院麻酔器・滅菌器整備計画」

完了式

2018年9月27日



写真（左）：柳沢大使（中央）とジャエ・リロングウェ司教区大司教（右）が整備された麻酔器を確認する様子。**写真（右）**：本案件により整備された滅菌器。

2018年9月27日、マラウイ国の首都リロングウェ近郊のリクニ・ミッション病院（被供与団体）の主催により、草の根・人間の安全保障無償資金協力「平成29年度リロングウェ県リクニ・ミッション病院麻酔器・滅菌器整備計画」の完了式が執り行われました。同案件は、病院に対し40,000米ドルが供与され、麻酔器及び滅菌器が1台ずつ整備されました。本式典には、病院関係者や教会関係者などが出席し、多くの方々が祝辞の言葉を述べました。

式典で柳沢大使は、マラウイ政府は保健分野で数多くの難題を抱えているが、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC: Universal Health Coverage）を達成するために尽力していることを賞賛しました。UHCは手ごろな価格、アクセス、質の高い医療サービスの3つの要素によって成し遂げられるものと考えており、質の高い医療サービスには有資格者や適切な医療機器が必要であると述べました。また、UHCを提唱する日本の大使として、本案件がその一助になり得たことを光栄に思うと喜びを表しました。

最後に柳沢大使は、同病院の医療スタッフによって新しく整備された医療機器が十分に活用され、適切な管理が行われるよう期待したいと述べました。また、マラウイ・キリスト教保健教会に対し、リクニ・ミッション病院が引き続きコミュニティに十分な医療サービスを提供できるよう、支援の継続を要請しました。